



トマトの裂果

愛知県のトマト栽培において、温暖化による気温上昇の影響により、裂果が多発する問題が発生している。多いときには全収穫物の2割が廃棄せざるを得ない状況が生じている。今後、温暖化のさらなる進行に伴い、被害の発生頻度は一層高まることが予想される。近年、低コストで対応可能な技術として、果実に繋がる茎（果梗）を潰して一時的に水分流入を阻止する「果梗捻枝（かこうねんし）」が注目されている。しかし、この技術には以下のような課題がある。

- ①**労働負荷が高い：**
ペンチで果梗を潰す必要があり、対象果実が多いため作業量が膨大になる。
- ②**技術自体があまり知られていない**
10年以上前の技術であるが、生産者の間で十分に浸透していない。



果梗捻枝のイメージ

- ・ 裂果防止効果を維持しつつ、力が弱い作業者（女性、高齢者）でも1時間程度使い続けられる器具の開発
- ・ 初期投資の負荷軽減や収益性向上が見込める導入メリットの提示



器具の開発と普及により、東三河地域（豊橋、豊川、田原）を中心とした愛知県内の、トマトの裂果被害の半減を実現する。

- **力が弱い作業者**でも使用でき、**裂傷防止効果**が期待できる器具であること
- **現実的な導入価格**及び**収益性の向上**が見込まれる**精度、価格、耐久性**であること

農業現場フィールドでの実証により、

1年目

- ・試作品の作成

2年目

- ・試作品の改良
- ・実証完了
- ・販売体制の準備

カテゴリ	仕様
裂果防止効果	・ 茎の太さにバラツキがあっても果梗を均一かつ確実に押し潰し、安定した裂果防止効果が得られること。 ・ 裂果防止効果が最低でも7日間持続すること。 ・ 本仕様に基づく効果が検証可能であること。
操作性	・ 製品重量が500g程度で、力の弱い作業者（最大握力25kg以下）が片手で扱える構造であること。 ・ 特別な力や専門技術を必要とせず、1本あたりの処理時間が10秒以内であること。 ・ 1時間前後の連続使用、かつ360回前後の連続作業においても、作業者に過度な疲労や身体的負担を生じさせないこと。
収益性	・ 裂果率の改善により、導入後3年以内に導入費用（器具代・人件費）の回収が見込めること。 ・ 10年程度の耐久性を有すること（通常使用条件下での評価）。 ・ 生産者が無理なく購入できる価格設定となっていること。 ・ 上記内容に関して定量的な評価・説明が可能であること。

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
技術提案の業者選定							
→		現場フィールドでの実証 事業プラン・試作品の作成					
						→	
						成果報告 →	

1年目の事業プラン、試作品の作成の**予算は100万円**を想定。

2年目に実証完了、販売体制の準備を目指します。